

森林インストラクターの森 活動報告

1. 活動日 2023年11月12日、
2. 内容 間伐
3. 参加者 池田、近江、沖本、田崎、毛利、横山、芳野、星野
4. 報告 星野

曇りで肌寒い日。カツラ、ホオノキ、トチノキ等の落葉が進むも、カエデ類の紅葉は未だ。冬イチゴは、赤い実をつけていた。作業前に、間伐時の事故事例や「間伐に当たっては当事者同士の意思疎通が大事」との話があった。作業は、ヒノキ林南側道路沿いと川近くの広場予定地を間伐する2班に分かれて実施。

広場予定地の間伐は、毛利さんが大活躍。8月にメーカーのチェーンソーと刈払い機の講習を受け、本日が実戦デビュー。沖本さんの指導の下で、ヒノキ23年生を3本伐倒した。最初は機械の扱いに戸惑いがあったものの、3本目はスムーズに進んだ。今後も経験を積み、当会初の”林業女子”の誕生が期待されます。

沖本さんが2本伐倒し、毛利さんと合わせて5本処理したので、広場予定地は明るくなり、狭いながらもある程度の空間が確保され、12月以降も整備を継続していけば、色々な用途に使用できそうです。また、作業の過程では、掛かり木を回転させて処理する方法とヒノキの葉の裏表のそれぞれの利用法について沖本さんから教えていただいた。

なお、道路沿いを作業した班は、2本伐倒しましたので、本日の間伐は7本のヒノキを処理したこととなります。

作業終了後にキノコの櫛木を見ましたら、シイタケと大量のナメコが発生していました。10月22日（間伐研修日）より多かったものの、時期的にこれがピークかもしれません。キノコは、”山の幸”として収穫。

本日も参加者は、いつものメンバー。入会して間もない方の参加がなく、同じ顔触ればかりになっているのは残念です。森づくりでの数々の経験は、子供たちに森についてインストラクトする際に必ず役立ちます。機会があれば、ご参加ください。



広場予定地ヒノキ伐採



キノコ生育状況確認



キノコ類の収穫